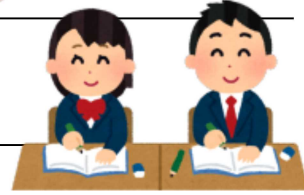


太宰府中学校 | 学年だより

第9号 R5.7.14 文責：1学年主任

前期前半を振り返って



早いもので、もう7月の半分が過ぎました。

皆さんが4月12日に中学校に入学してから、約94日が過ぎたこととなります(休日を含める)。入学してすぐに体育祭の練習が始まり、3年生の先輩方に「とにかく迷惑をかけまい」と必死でついでいった日はずいぶん昔のように思い出されます。

小学校とは違う学校生活のルールや授業の進み方、部活動のことなど、最初の頃はあちこちで聞こえていたネガティブな声も、しだいに聞こえなくなり、それなりに適応していつているようです。

先月の授業参観でも、皆さんのおうちの方から「ずいぶん成長しました」という声をいただきました。授業に真剣に取り組む皆さんの姿を見て、おうちの方もさぞ安心されたことでしょう。

さて、先日「前期前半を振り返って」という学習をしました。皆さんにそれぞれの場面で頑張ったことをかいてもらい、前期の振り返りをしました。以下は皆さんの感想の一部です。

- 交友関係や学習、慣れないことも多かったけれど、勇気を出して東小の人に話しかけたり、学習に取り組んだ。
- いつも笑顔でいたこと。
- ワークを一週間前にしっかり終わらせた。
- リーダーとかあんまりやったことがなくて、最初みんなをうまくまとめられるか不安だったし辛いこともあったけれど、みんな一生懸命で、私も頑張ろうと思えた。運動も得意じゃないし話すのも得意じゃないけれどみんなが支えてくれてうれしかった。
- 給食時間のとき、ストローを配ったり、配膳台を出し入れしたり、牛乳をすばやく配ったりしました。配膳台が他の組がだしっぱなしのとき、元の位置に戻したりしてあげました。
- 掃除の時、モップで床を隅々まで拭けた。すれちがった先生には、必ず挨拶をしている。
- 掃除の時間、一言もしゃべらずに黙々と隅々まで掃除をすることができた。
- 先輩のサポートができるように、ボール拾いを精一杯取り組んだ。先輩がしていることを聞いて代わりに仕事をしたり、新しい仕事を覚えたりした。
- 友達関係を崩さずに、友達には優しく接したり、困っていたら声をかけたりした。
- 文化委員の図書の仕事で、図書室カウンターの当番などのとき、図書室を利用する人ができるだけ快適に過ごせるよう、心がけて仕事をすることができた。
- ミチザネノートをぎっしりつめてまとめた。
- 周りをよくみて、物が落ちていたら拾って、困っている人がいたら声をかけたりしていた。
- 昼休みに、友達を誘って一緒に遊んだ。



また、6月に実施したQUテスト(学校でのよりよい人間関係をつくるために伸ばしてほしいことを分析するテスト)では、個人の様子だけでなく学級・学年の様子も分析されていました。

ここでは、学年の様子について分析された結果をお知らせします、(個人の分析結果については、夏休みの面談でお知らせします)

◎全国平均よりも望ましい傾向にあること

- 授業の内容が理解できる。
- 学校内に悩みを相談できる先生がいる。
- 学校内に気軽に話ができる先生がいる。
- 担任の先生とはうまくいつている。
- 部活動には自主的に参加している。
- 自分を頼りにしてくれる友人がいる。
- 学校内で私を認めてくれる先生がいる。
- 自分の係の仕事は最後までやりとげている。
- 班活動で友人が失敗したときは許している。
- わからないことがあるとき、友人や先生にいつている。

◎全国平均よりも望ましくない傾向にあること

- 他の人に左右されずに自分の考えで行動している。
- 自分は部の中で存在感があると思う。

この結果を見る限り、学校生活の要である「授業」の内容が理解できるということ、悩みがあるときに相談できる友達や先生がいるということ、そして、先生との関わりがうまくいつていることに、私はとてもうれしく感じました。

4月に皆さんを受け持つことが決まったとき、私たちがまず目標にしたことは「皆さんとの信頼関係をつくる」ことでした。中学校生活ももう4ヶ月を過ぎようとしています。これからも、生徒どうし、生徒と先生とのよりよい信頼関係を大切にしてほしいと思います。

反面、気になることもあります。それは、「他の人に左右されずに自分の考えで行動している」数値が低かったことです。

これは、先月に学年で行った生徒アンケートからも同じようなことがあがっていました。授業中の誰かの不規則発言(授業とは関係ないことや、わざと茶化すような発言をすること)と一緒に笑ったり、先生の指示に失礼な態度をとる場面が見られました。

また、日頃の生活でも、数名で意図的に大きな声や甲高い声を出すなど、落ち着きのない行動も見られました。

皆さんは、これらの行動をどう思いますか。



先週、皆さんは「言葉の大切さ」について学習しました。言葉は「言刃」とも例えられ、刃物のように役に立つものであるとともに、使い方を間違えれば人を傷つけるものでもあるといわれます。

小学校のときは大目にもてもらえた行動も、いつまでも許されるものではありません。

一部の甘えた言動に左右されず、お互いが「おかしいことはおかしい」と注意しあえる集団に成長してほしいと願っています。これからの皆さんの姿に期待しています。